

広島

広島総局
〒730-0042
広島市中区
国泰寺町1-3-20
☎(代)082-243-0101
FAX 243-0103
ホームページ
http://www.yomiuri.co.jp/e-japan/hiroshima/

呉支局
〒737-0051
呉市中央2-6-10
村上ビルⅡ3-A
☎(代)0823-22-5425
FAX 22-5426

福山支局
〒720-0815
福山市野上町
1-9-27
☎(代)084-927-1111
FAX 927-1114
通信部
三 次 0824-63-5241
東 広 082-422-5303
竹 島 0846-22-0788
三 原 0848-62-2920
尾 道 0848-23-3211
府 中 0847-45-6909

下川葬祭

真心をこめてお手伝いさせていただきます。
24時間受付
江田島町切串1-13-21
☎0823-44-1194
☎0823-44-1147
(葬儀場)

平成23酒造年度
[限定品]
全国新酒鑑評会
酔心【金賞受



病院の実力「医療安全」

医療機関別報告実績 (読売新聞調べ)

医療機関名	専従担当者	事故調設置 (終結件数)	1床当たり 報告件数	医師の報告 (%)
国・呉	○	○(1)	20	1
広島赤十字・原爆	○	×	14	1
国・広島西	○	×	10	1
国・賀茂精神	○	×	10	0
国・福山	○	○(2)	20	4
福山市民	○	×	12	3
尾道市立市民	○	×	7	4
庄原赤十字	○	×	30	*
寺岡記念	×	×	15	*
井野口	×	×	13	0
脳神経セ大田記念	○	×	7	3
岡山大	○	○(1)	13	4
岡山赤十字	○	×	4	1
岡山協立	○	○(2)	30	3
山口赤十字	○	×	9	1
国・柳井	○	×	11	*
湯野温泉	×	×	7	0

※「国・」は国立病院機構。「専従担当者」は医療安全管理の専従職員の有無。「事故調設置」は外部委員を招いた公式な医療事故調査委員会設置経緯の有無で、()内は2007～11年度までに調査が終結した件数。「1床当たり報告件数」は2009～11年度のインシデント・アクシデント報告件数を実質稼働病床1床当たり換算。「*」は0.5未満。

医療安全

情報の共有 定着不可欠

今回の「病院の実力」は、初めて「医療安全」をテーマに採り上げた。診療実績が中心の通常のアンケートとは少し性格の違うテーマだが、医療安全への取り組みは、医療の質や安全性向上に対する病院の姿勢を知ることが重要な情報だ。

病院の実力

広島編 54

には、実害のなかったケースも含め、起こったことが確実に報告される仕組みの定着が不可欠になる。

一覽表には、医療事故など患者に害が及んだ出来事やその可能性があった事例を集めた「インシデント・アクシデント報告」の件数を示した。

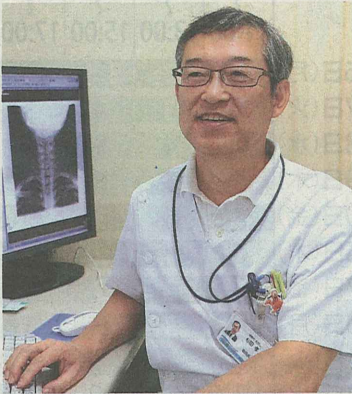
この報告がきちんと集まっていることは、事実を隠さず情報共有する「報告文化」が病院に根付いているかどうかの目安になる。医療スタッフの中でも、リスクの高い処置を行う医師の報告はより重要だ。

外部の専門家を招き客観性のある事故調査をし

ているかどうかや、医療安全管理の専従職員の有無も、各病院が医療安全をどこまで重要視しているかわかればいい材料になるだろう。

*全国の調査結果は「くらし健康面」に掲載しています。

呉医療センター・中国がんセンター 杉田孝・副院長に聞く



情報共有の重要性について話す杉田副院長(呉市の呉医療センター・中国がんセンターで)

「ヒヤリ・ハット」減らす努力

国立病院機構「呉医療センター」中国がんセンターの杉田孝副院長(60)に、医療安全の取り組みについて聞いた。(小宮宏祐)

当院では重大な事故には

至らないものの、直結してもおかしくない一歩手前「ヒヤリ・ハット」の報告を約10年前から毎日、実施しています。週に1回だけ、△手遅れになる場合

があると考えているからです。何かあったらすぐに知らせる「報告文化」を構築してきました。同じ事象について複数の報告が寄せられるケースもあり、昨年度は計5040件でした。

報告は医師や看護師だけでなく、全職員が対象です。トラブルなどを個人の問題にせず、「責任は病院が持ち、解決する」というスタンスを明確にしています。

報告の多くは「薬の数を間違えていたのを未然に気付

いた」など、危険を回避できたという内容です。ただ、課題もあります。医師からの報告が全体の1%程度と少ないことで、感覚で「このくらいは大丈夫」というのもあるのだと思います。

万が一、医療事故を起こしてしまった場合、すぐに患者や家族に真実を伝えて謝罪します。過去3年間で5回、謝罪しました。長期にわたる薬の過剰投与があったケースでは、担当医師と上司が患者に説明し、理解、納得してもらいました。

今後の目標は「ヒヤリ・ハット」を減らしていくことで、医療事故がゼロになるよう努力することです。

また、報告事例を検証し、医療安全の知識を持った人材の育成を図り、医療の安心・安全を追求していきたいと考えています。